

◎基本情報

事務事業名	ブランド産地推進事業(水産)			担当部署	経済建設部 水産振興室	
総合計画体系			根拠法令 計画など	鴨門市農林水産振興事業補助金交付要綱 徳島県農林水産政策関係事業補助金交付要綱		
基本政策(大項目)	1	うきうき活力と魅力あふれるまちづくり		事業期間	開始	平成 ▼ 19 年度
政策(中項目)	1	豊かで活力あふれるまち なると			終期	未定 ▼
(小項目)	△	農林水産業				
施策	6	水産業の振興				
基本事業	2	漁業経営の安定化とブランド化の推進				

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	□個人 □世帯 <input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理							
		本市ブランド品目の水産物 市内若手漁業者							
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	本市の水産物の消費拡大や販路拡大を推進し、ブランド化の強化を図る。							
事業計画	29年度に何を計画していたか	本市水産物の消費促進及び販路拡大のため、新鮮な水産物の捌き方を生産者が直接指導する「旬の魚の捌き方教室」や、「鳴門わかめの料理教室」、県内外でのPR活動等を実施する。また、本市の特産物である「鳴門鯛」「鳴門わかめ」「なると金時」等の新鮮な魚や農産物・加工品等を販売し、消費者に対する安全・安心をアピールするため、農水産物フェアを実施する。また、若手漁業者の活動を支援し、水産物のPR及び消費拡大、後継者育成を推進する。							
成果目標	事業目標の達成度合	指標名	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	単位	
		農水産物フェア来場者数		5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	人

◎実施結果(DO)

事業実施内容	29年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	鳴門板野青年会議所との共催により、本市特産品の鮮魚や農産物・加工品などを販売する「大鳴門鯛祭り・鳴門市農水産物フェア」を開催した。また、本市水産物のPRのため、魚のさばき方教室や料理教室、県内外でのイベント等を開催した。 若手漁業者の活動として、ハマチの餌やり体験や他産地への視察を行い、水産物のPRや生産技術の研究に取り組んだ。
事業実施手法		□市実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他
指標名		28年度実績 29年度実績 30年度目標 31年度目標 32年度目標 単位
活動指標 実施した事業の活動量を示す指標	1 県内外PR活動	5 5 7 7 7 回
	2 料理教室等イベント開催回数	9 8 8 8 8 回
成果指標 対象にどのような効果があつたか示す指標	農水産物フェア来場者数	7,000 10,000 一 一 一 人
	目標達成率(実績/目標)	200.0 一 一 一 %
今年度の進捗状況		計画どおり
事業全体の進捗状況		計画どおり

(千円)

財源内訳	年 度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
		当初予算額	0	0	0	0	3,383	3,383
平成29年度	決算額	補正予算額	0	0	0	0	0	0
		繰越予算額	0	0	0	0	0	0
		全体予算額	0	0	0	0	3,383	3,383
		決算額	0	0	0	0	3,230	3,230
		繰越額	0	0	0	0	0	0
	人件費	正規職員(7,234千円/人)	臨時職員(2,492千円/人)		総人件費		総事業費	
		0.4	0.0		2,894		6,124	

【鳴門市行政評価】

【事務事業名:ブランド産地推進事業(水産)】

事業費推移	年 度	28年度決算	29年度決算	30年度	31年度	32年度
	事業費	2,511	3,230	3,135	3,135	3,135
	うち一般財源	2,511	3,230	3,135	3,135	3,135
	人件費	2,853	2,894	2,894	2,894	2,894
	総事業費	5,364	6,124	6,029	6,029	6,029

◎項目別評価(CHECK)

評価項目	評価値	所見欄
①活動に対する評価	有効性	A:有効性があった 水産業振興を図るうえで、海産物のPRや販促イベントは必要不可欠である。
	効率性	A:効率的だった 水産業振興の指導的役割を果たす漁協と市が連携しながら事業を進めることができた。
②成果に対する評価	指標名	農水産物フェア来場者数
	目標	5,000 人
	実績	10,000 人
	評価	A:目標を達成できた
③総合的な評価	A	各種事業に取り組んだ結果、目標を達成したためAとした。

◎今後の方向性(ACTION)

課題	魚の捌き方教室や農水産物フェアなどのイベントについては、参加者も多く定着しているがリピーターの方が多いのが現状である。新規の参加者を増やし、さらなる水産業の振興を図るためにイベント内容や周知方法を検討する。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	3
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	H30年度	農水産物フェアについて他団体のイベントと同時開催するなど、各種イベントの集客力を強化する。また、より効果的・効率的にイベントを開催できるよう開催方法などについて検討を図る。			
	H31年度	30年度に同じ。			